

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

KEIWA

COLLEGE REPORT

第19号

〈JULY 1999〉

発行/敬和学園大学広報委員会

CLOSE UP

わたしの歩んできた道

アラン・ブロンデ

新任教職員紹介／海外研修レポート

北垣学長へ～卒業生からの手紙～

オープンキャンパスのご案内／二〇〇〇年度入試のご案内
保護者就職懇談会のお知らせ



今年度の入学式は、4月3日（土）午後1時から新発田市民文化会館で行われました。

各学科長が全入学生の名前を呼び上げ、北垣学長の式辞の後、新入生を代表して、敬和学園高等学校卒業の高橋江美子さんが、「仲間との出会い、先生方との出会い、学問との出会いを楽しみにしている。来年2000年に成人を迎えることは、奇跡的ですばらしい。地域、社会、未来に目を向け、より良い未来のために、私たちにできることから始める必要がある。」と宣誓を行いました。



もくじ

わたしの歩んできた道 アラン・ブロンデ	1	保護者就職懇談会のお知らせ	10
新任教職員紹介	4	敬和学園大学公開講座	10
新入生オリエンテーションを終えて 久島公夫	5	後援会長就任挨拶 石井富男	11
海外研修レポート	6	「新発田育英会学生寮」と「本郷・西片町」 片桐邦郎	11
北垣宗治学長へ ~卒業生からの手紙~ 栗栖仲次	7	図書館における「情報センター」として の役割 松原洋子	12
4期卒業生 佐藤浩雄	8	各種証明書等の自動発行機導入	12
社会人入試の日程	8	敬和グッズを発売	13
オープンキャンパスのご案内	9	寄付者ご芳名	13
2000年度入試のご案内	9	学事予告	13

<表紙> 田 中 忠 雄「基地のキリスト」

わたしの歩んできた道

教 授 アラン・ブロンデ



過去においても未来においても多くの人がそうすることだろうが、私もまた人生の大半を「意味」を求めて生きてきた。後に有名人となったトライスト会士のトーマス・マートンが、自分の半生を綴った『七階建ての山』という作品を一九五〇年代に著したが、私が登らねばならなかつた山もおそらくそれ程高くはないにせよ、マートンの生涯と同じように糾余曲折があつた。

学校とわたし

私の公立小学校入学の時期はアメリカ人哲学者のジョン・デューアの教育理論が多大な影響力を持っていた時代と重なる。簡単に言えば、彼の理論とは子供たちに自分に合つたベースで、自分のやり方で学ぶ完全な自由を与えるというものだつた。私の小学校での最初の記憶はと言えば、粘土で戦艦を作つたり、休み時間にクリームサンドクッキーを食べたりしたことだ。ABCの勉強については記憶がかなりぼやけていい。それでは社会の規則や規定を知り、良き市民、社会の良き一員になるための教育についてはどうだつたか。なるほど私たちから常に注意を注がれ、同時に多くの物品は毎朝アメリカ国旗を掲揚して忠誠を誓

い、国歌を斉唱してはいた。しかし確かに育つたと言える。第二次世界大戦のために父は二年以上家を離れ、それによって父は私を甘やかすことができなくなつたわけだが、もし戦争がなかつたら、私は若き祭迦、王子シッダールタ（願望が満たされた者の意）のように、人生は一つの絶えざる快樂の宮殿ではないということに気づかずには近所の学校に入り、初めのうちこそ科学のような新しい分野の学問が好きで得意だつたりしたが、そのうち不良の仲間入りをして、学校がつまらなくなり、成績も落ち始めた。三年後に地元の高校に進学してから事態はますますひどくなつた。成績の良い生徒は特別な高校に進学したため、地元の高校生の大部分にはどうせ自分たちは落ちこぼれだ、という気分が蔓延していたからである。ところがそんな高校時代に予期せぬことが起つた。

死と教会とわたし

一人っ子だった私は、大家族の中で育つた両親が子供時代に味わえなかつた多くのものを与えられて育つた。このような両親から常に注意を注がれ、同時に多くの物品

を買い与えられた私はかなり甘やかされて育つたと言える。第二次世界大戦のために父は二年以上家を離れ、それによって父は私を甘やかすことができなくなつたわけだが、もし戦争がなかつたら、私は若き祭迦、王子シッダールタ（願望が満たされた者の意）のように、人生は一つの絶えざる快樂の宮殿ではないということに気づかずには近所の学校に入り、初めのうちこそ科学のような新しい分野の学問が好きで得意だつたりしたが、そのうち不良の仲間入りをして、学校がつまらなくなり、成績も落ち始めた。三年後に地元の高校に進学してから事態はますますひどくなつた。成績の良い生徒は特別な高校に進学したため、地元の高校生の大部分にはどうせ自分たちは落ちこぼれだ、という気分が蔓延していたからである。ところがそんな高校時代に予期せぬことが起つた。

私が十五になつたばかりの頃、私の大好きな母方の伯母が亡くなつた。伯母はいつも病氣がちな人だつたが、心臓の手術の後、それが原因で肝炎に感染してしまつたのだ。手遅れになるまで正しい診断を受けられ

CLOSE UP

れず、伯母は急速に弱っていた。そんな彼女を毎日母と、そして週末になると父も一緒に病院へ見舞い、病気がゆつくりと伯母の体を蝕んでいくのを見ていた。その最期の日、私は伯母のベッドの傍らにいた。あれから四十年以上たった今でも、亡くなる時の伯母の苦しみ悶える顔と発作的に身をよじる姿をありありと思い出すことができない。それは痛ましい死だつた。それは恐るべき死だつた。

それまでの私は刹那的な日々の快樂の前には何があり、後に何が来るのかさほど気に留めていなかつた。しかしいまや全てが変わってしまった。その後、悪夢にうなされ、真夜中に目覚めると泣きわめいていたといふことが何度かあつた。私の中で生まれつたつあった問い合わせが何か欲しかつた。「人生とはいつたい何なのか」「なぜ人は死ななければならぬのか」「死で終わるのなら人生の意味はどこにあるのか」という問い合わせへの答えが。

メソジスト教徒として洗礼を受けていた私は、近所のメソジスト教会の門を叩き、答えを見出そうとした。しかしそこでは答えも見つからず、礼拝にも何ら魅力を感じられず、心の平安を得られるような経験ができる場所を他に捜した。皮肉にもその答えは私の家からそう遠くはない所にある大きなかトリック教会で見つかった。堂々とそびえ立つ建物に足を踏み入れたとたんに、ステンドグラスのはまつた窓、明るい金色と深紅で豊かに彩られた大きな壁、戯れる光と影とに私は包まれた。そしてそれすべては私を平和と美の世界へと誘い、何か今までと違うもの、何か超越したもの、

すなわち新しい不思議な世界のあることを私は暗示した。搜し求めていたものが見つかつたのだということを私は知つた。そのような訳で高校卒業後、司祭になるべく神学校に入ることに決めたのであつた。

芸術とわたし

神学生としてラテン語や無味乾燥な中世哲学を二年間勉強した後、私自身の役にして立たないことを人に伝えて人生を費やしたくはないと思い、司祭になることをあきらめた。それではどうしたらいいのか。なお私は街角のあの教会に初めて入った日に感じたあの満足感、あのような畏敬の念に満ちた経験を与えてくれる何かと深く関わりたかった。

大学に入ると、何を勉強することになろうと、それが自分にとつて重要なものでなければならないないと私は考え、それを人に伝える人生を生きていきたいと思った。それは教師になることだ。しかし何を学べばいいのか。なぜそれを選んだのかほとんど意識せずに、あたかも見えざる手に導かれたかのように、文学を学ぶことに私は決めた。二年生になる頃には文学の中に、私の求めていた考え方、感情、そして経験——混乱し悲しみに沈んだ十五の少年だった私が抱いた問い合わせに、自分なりの答えを出す手助けをしてくれるような経験——を見出すことができると私は悟り始めていた。

そして大学院で文学の学位を修得する頃までには別のこと認識するようになつて、いた。すなわち文学、音楽、美術といったすべての芸術は同じ場所へ通じる道なのだと。ひょっとしたらそれは同じ道でさえあ

るのかもしれない。これらの芸術は相俟つて一つの大きな輝かしい意匠を作り、生命や我々が生きる宇宙のすばらしさについて、私たちの五感がほとんど知りえない可能性について教えてくれるのだ。英国の偉大なロマン派の詩人ウイリアム・ブレイクの次の一節はまさに至言である。

風を切つて飛ぶ鳥は

無限の歓びの世界だが、
汝は知ることができるようか。

（『天国と地獄の結婚』より
松島正一訳）

一篇の優れた詩を読むとき、一幅の見事な絵を観るとき、一つの立派な建物に入るとき、あるいは一曲の偉大な音楽を聞くとき、私の眼で見たり、耳で聞いたり、手で触れたりすることのできない「無限の歓びの世界」があることを私は教えられる。偉大な芸術で示唆される世界、それは深い内面世界であつたり、目に見えない原子の世界であつたり、遙か彼方の目に見えない茫漠たる銀河系であつたりする。そしておそらく何よりも、それは今ここに、人の創造的な心の中にあるものなのかもしれない。

（訳・英語英米文学科講師 金山愛子）

CLOSE UP

[Plate 2]

The Argument.

Rintrah roars & shakes his fires in the burdend air;
Hungry clouds swag on the deep.

Once meek, and in a perilous path,
The just man kept his course along
[15] The vale of death.

Roses are planted where thorns grow,
And on the barren heath
Sing the honey bees.

Then the perilous path was planted:

[16] And a river, and a spring
On every cliff and tomb;
And on the bleached bones
Red clay brought forth.

Till the villain left the paths of ease,
[17] To walk in perilous paths, and drive
The just man into barren climes.

Now the sneaking serpent walks
In mild humility,
And the just man rages in the wilds

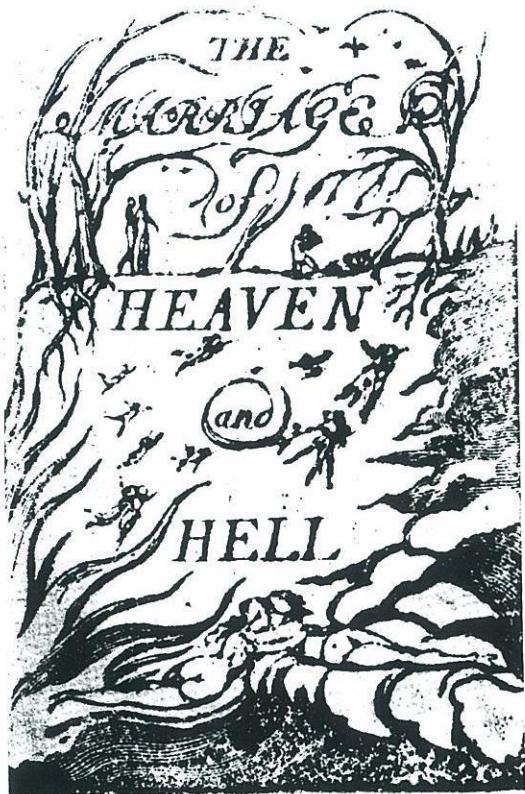
[20] Where lions roam.

Rintrah roars & shakes his fires in the
burdend air;

[22] Hungry clouds swag on the deep.



[Plate 1]



THE MARRIAGE of HEAVEN and HELL

ブレイク自身の手による「天国と地獄の結婚」の表紙絵



本学では、一九九一年の開学を記念して、秋田県果樹試験場からニユートンのりんごの苗木を譲り受け、「ニユートン」のように世界をリードする人材が育つて欲しい」という願いを込めて、同年四月十六日の開学式の日に、事務室前に植樹しました。一九九七年その木に初めて果実が実り、その後は毎年数個の小さな実をつけるようになります。(写真は六月に撮影)

昨年、ある見学者が見ている前で落としたので、感激のあまりその実をかじってみたら、とても酸っぱかったとか。ご注意ください。

ニユートンの
りんごの木

新任教職員紹介

若月 忠信

(客員教授)



文学の講義を終えて車に戻ると、いつもきまつて私の胸をよぎる思いがありました。

ほっとした気持ちと、もう少しみんなと話をしたかったといふ気持ちです。

そんな思いが特に強いときは、すぐに車に戻るのがいやで、オレンジホールや図書館へ足を向けています。

椅子にすわって、みんなの声や動作を聞くとはなしに聞いたり、見たりしていると学生であつた私のあのころをゆっくりと思ひ出します。

文学なるものにあこがれ、未熟な自分自身の資質に不安を覚えながら、うつうつとした日を送っていたあの日。惰弱な性情と少しばかりの感受性がすべてだったあのころ。異性の友だちとも遠慮がちに交わした会話の思い出。

どこに明るさなどあつたのでしよう。どこに未来を信じようとした私がいたのでしょ。う。

ここまで書いてきて、私は息苦しい気持ちになっています。あれから半世紀近い時間が過ぎているというのに。

ほんとうはここで、いまの自分に至る過程を書かなければならないのですが、いずれの機会にさせて下さい。

ただ、学生時代の体験が、私を文学に向かわせたのです。そして私を救い出してくれたのも、また文学だったのです。

この四月、学長先生から、客員で敬和学園大学のためにやつてみませんかと声をかけていただきました。

私のできることは、微々たるものですが、学生のみなさんと本学のためにできることがあればと思つています。

文学のもつている力を信じながら諸先生と一緒に微力を尽くします。

前よりも、いつそう敬和学園大学が私の身近になつたことをうれしく思つていまざしましよう。

研究室から車に戻るとき、私の胸をよぎる思いは、この春からは新しい思いになつています。

房 文慧



本年度から経済学、
経済史および国際関係
演習Ⅰを担当している
房文慧です。出身地は
中国北京市です。

(助教授)

一方、自動車の騒音、大気汚染や自然環境の破壊などで、人によつては何物にも替

えられないほどの価値をもつたもの（静けさ、洗浄な水、空気など）が失われても、G.N.P.はそんなことには遠慮なく増大しています。このように、G.N.P.の水準がその国の「実質的な生活水準」の指標として使われることは、やはり人間至上、環境に対する「冷たさ」のあらわれではないでしょうか。人間至上主義は十八世紀から続いてきた西洋文明の考え方です。つまり自然是人間のために存在し、人間は自然の中で最高の位置を占めるというものです。しかし、勝手に人間は至上であると思つて環境破壊をすることを何とも思わないことから生態系が崩れはじめているわけです。結局、環境破壊、生態系崩壊は人間自滅にはかなりません。

これらの問題意識を持ちつつ、環境、福祉、家庭などの問題を積極的に取り入れ、温かい人間性を表現できる経済学、すなわち、人間を自然のごく一部と格付ける経済学の教育・研究に取り込んでいきたいと思います。どうぞ宜しくお願ひ致します。

山崎 ハコネ

（ボランティア主事）



「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが行つて、実を結び、その実が残るようになると、また、わたしの名によつて父に願うものは何でも与えられる

ようだ」と、わたしがあなたがたを任命したのである。（ヨハネ福音書15—16）
主の導きのもとに、敬和学園大学においてこの四月からボランティア主事として、福祉教育にいささかでも携わることがゆるされましたことは、これまでキリスト教の牧師として、また社会福祉施設の実践の場で従事してきた者にとって大きな喜びです。

ようやくボランティアセンターまで迷わず辿り着けるようになりました。正門から遠い位置にあります、「学生諸君」の皆様、週三回（月・火・金）ボランティアセンターにいますので、気軽に立ち寄りください。ボランティアセンターが、学生諸君にとって「ボランティアへの出会い」の窓口となることができればと思っています。また、社会福祉関係の情報提供の場としてもご利用していただければ幸いに存じます。

私自身、「ボランティア主事」として関わさせていただく一方で、痴呆性高齢者グループホーム「からし種の家」の代表を勤めさせていただいています。「からし種の家」では、どのような事情があるうとも、高齢者が人間としての尊厳と権利を損なわず、その人らしく最期まで安心して暮らせることを目指して、二十四時間ケアをしています。ちなみに私の担当は主に夜間の宿直勤務です。

さらに、日曜日の聖日には、日本キリスト教団新潟愛泉伝道所の主任牧師として教壇に立ちます。どれも重責ですが、しかし、いずれも主から任命され、「その実が残るよう」と、派遣された恵みの場所です。

新入生オリエンテーションを終えて

学生部長 久島公夫

今年度の新入生オリエンテーションは、四月二十二日（木）、二十三日（金）の二日間に渡って例年通り胎内パークホテルで行われました。このオリエンテーションはスムーズに本学学生としての生活にとけ込み、自分の進むべき方向を確立して有意義な学生生活を送ってほしいということが目的となっています。

北垣学長のあたたかい歓迎の挨拶に始まり、礼拝を通してキリスト教主義に触れること、アドバイザーの先生との出会い、クラブ、サークルの上級生との交流、クラブ勧誘、山崎先生によるボランティア活動についての講話等の行事が好天に恵まれた爽やかな環境の中で行われました。

今年で九回目のオリエンテーションを終えたのですが、いろいろ問題点も出てきておりまして、実施方法、内容等について検討し直す必要があろうかと考えております。



クラブの勧誘風景

そして何より共通していることは、キリストにつながっているということです。ですから私としては、主に従うことで全て一致しています。なにはともあれ、元気印の山崎ですので、今後ともよろしくどうぞ。

海外研修レポート

活力に圧倒される—台湾研修の旅から—

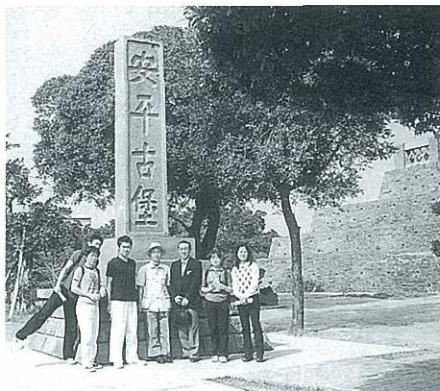
浅野ゼミ
国際文化学科四年

袖山 宗二

至る所で飛び交う台湾語や北京語。そして、次々とバイクにまたがり集まつてくる老若男女。甘いフルーツの匂いに混じり異臭が鼻をつく。高雄の屋台街に出かけた時の私の印象です。

夕方七時を過ぎる頃には、毎晩同じ場所に屋台が軒を連ね、市（いち）が夜遅くまで開かれています。台南でも台北でも。とにかく、台湾の人々は活気に満ち溢れています。私達は傍らで会話を聞いていましたが、言葉はわからないなりにそのスピード感と声の大きさに、台湾人のたくましさを感じ、圧倒される思いでした。

活気は、台湾の産業の面でも見ることが



台南近郊の安平城址で

できました。研修で訪れたジエトロの方の説明では、アジア通貨危機の影響も比較的受けていないそうです。政府の迅速な対策、それに厚い外貨準備などがその要因だそうです。

今回の研修（二月二十八日～三月六日）の目は、台湾の産業状況の視察と史跡の見学でした。高雄の輸出加工区、新竹の科学工業園区、鄭成功的安平城址などなど。それぞれ期待通り満足できるものでした。しかし、さらに別に得たものがあります。一週間でほぼ台湾を縦断したのですが、行く先々でとても温かい心を持った人々と交流することができました。このことも私の心に強く残っています。

中国が教えてくれたこと

松本ゼミ
国際文化学科四年

本間 一志

私たちは三月十日から一週間、松本ゼミのゼミ旅行で中国の西安と上海に行きました。初めての海外旅行なので期待と不安とが交錯しました。

中国に着いてまず感じたのは、とても近代的なこと。もっと古いイメージがあつためつづれ、建物や道路などはスケールが大きく、とても開放的でした。中国人の人たちは自分たちの夢を追いかけ、経済的に豊かになろうと一生懸命働いていました。日本

本よりも市場経済は活発で、人々のエネルギーに圧倒されました。こんなに活発なエネルギーが日本でも起これば景気も回復できると感じ、見習わなければならないと思いました。

また、私は大学で全然語学を勉強しなかつたので、中国の行き交う人々の言葉が全く分かりませんでした。話しかけられても答えることができず、自分自身とても恥ずかしい気持ちになりました。もっと自分の意見をいろいろな人々に伝えたい、コミュニケーションしたいという思いが芽生え、日本に帰つてから中国語講座に通つて学習を始めています。私は四年の今ごろになつて言葉の大切さを身にしみて感じ、あまり勉強しなかつたことを後悔しています。皆さんは私の二の舞にならないよう、外国语を勉強し、海外に積極的に出てください。

自分から動くことで私と同じように何か感じるものがあると思います。その感受性が大切だと思うし、成長する糧となると思います。今回の旅行は大変有意義でした。



西安、楊貴妃で有名な華清池にて

北垣宗治学長へ

～卒業生からの手紙～

第三期卒業生 栗栖 仲次

拝啓 ドイツにおいても桜の花咲く季節となりましたが、先生にはお変わりなくお過ごしでございましょうか。

私はドイツに赴任して一年が過ぎました。私は

日本食の仕事に携わっております。ドイツ日本館の物資部に所属しております。

ドイツ日本館はレストラン部門と物資部門（卸

売り）に分かれます。物資部は日本の食品を日本から輸入し小売店や日本食レストランへ卸すことが、業務内容となつております。現在、二カ月に

一度の割り合いで日本からの食品コンテナが到着します。私の担当営業地域はベルリン、ミュンヘン、フランクフルト、ケルン、デュッセルドルフで、ドイツの大都市のほとんどです。現在ドイツ国内では日本食の需要が多く、我が社の売り上げも伸びています。また空前の寿司ブームで回転寿司屋が次々とオープンしています。日本語週刊誌「ドイツニュースダイジェスト」では毎週寿司職

人募集の広告が多く載っています。私の今後の目標はドイツ語で十分に商談できるよう、ドイツ語をマスターすることです。
今は日本人のお客さんがほとんどですが、今後ドイツのお客とも商談できるようドイツ語力を上げようと考へています。

ところでそろそろ卒業式ですが、今年の就職内定率はいかがでしょうか。相変わらず景気が悪いとしか聞きませんが、私の時に増して厳しいことでしょう。同じ大学にいた卒業生として、後輩のことが心配です。

日本ではインフルエンザが流行していると聞きますが、お体には十分お気をつけください。先生の御健康心よりお祈り申し上げます。

敬具

一九九九年三月十四日
第三期卒業生 栗栖仲次

追伸

大変おそくなりましたが、寄付金を同封いたします。（最近銀行にいくひまがなく両替できませんでした。マルクで大変申し訳ありません。）

また、ヨーロッパへお越しの際はぜひお立ち寄りください。

4期卒業生

敬和学園大学ありがとうございました。



私は、昨年

三月、敬和学園大学初の社会人学生として国際文化学科を卒業しました。職業？

私は新発田市議会議員でした。今年四月の地方統一選挙で新潟県議会議員に当選しました。この県議会議員選挙には私の同級生や学生が寝食を忘れて応援してくれました。そのおかげで当選いたしました。私は感謝でいっぱいです。しかし現在の私は五十四歳、同級生は二十一歳です。私の後援会では何故若者が佐藤浩雄を応援するのか、不思議だと言つておりました。米を送つててくれた人もいました。何百人も知人を紹介してくれた人もいました。集会では自主的に出演してくれ、会場のムードを一挙に爆発させ、盛り上げてくれました。ウグイス娘を務めてくれた同級生もいました。学長先生夫妻を始め、多くの先生がたも応援に来て下さり、学生を励ましてくれていました。そして、感動的な場面や当選した時は感激してみんなで抱き合い泣きました。年の差を全く感じないで励まし合い、感動していました。

これが同級生なんだ、一緒に勉強し、悩み苦しみを分かち合ってきた大海ゼミの同

級生なんだ。今やっと大学の真の意味が少し理解できました。大学にはいることが夢であった私は入学まで英語の勉強で大変苦労しました。入学は教養をつけ、人格の陶冶に努める事が目的でした。事実、取った科目どれもが大変勉強になったのです。国際関係論や平和学、現代企業論、国際金融論、現代哲学のアイデアや論理はすぐに議員活動に取り入れました。また環日本海文化研究AやBのように新たな興味が出たものもありました。そして先生の人間的な優しさと厳しさ

新潟県議会議員

佐藤浩雄

に触れ合うこともできました。楽しかったのは大海ゼミでした。春の花見、ディベート、金沢のゼミ大会、東京合宿と課外活動も楽しかった。申し訳ないことに、つい年上の私が若者を叱つてしまふ場面が結構ありました。そして自宅でのゼミ合宿が何よりも楽しかったのです。酒を飲んだら帰さないことを原則にしていましたので、年甲斐もなく朝まで酒を飲んで徹底的に話し合いました。ゼミ生にとつては迷惑だったでしょう。でも一生の仲間が出来たのです。

私は大学とは生涯の仲間を作るところであります。仲間を大切にすることを学ぶところであると今やっと知りました。それは人間を大切にする敬和学園大学だったからではないでしょうか。敬和学園大学ありがとうございました。生涯の友人が出来ました。

経験を重ねた今だからこそ
学問の真髄に触れられる
だから…

敬和学園大学の
人文学部(英語英米文学科／国際文化学科)
社会人入学

入学試験日：1999年10月23日(土)

試験科目：小論文、面接

試験会場：敬和学園大学

出願期間：1999年10月4日(月)～15日(金)

合格発表：1999年11月2日(火)

資料請求・お問い合わせをお待ちしております
敬和学園大学 教務課入試係

〒957-8585

新潟県新発田市富塚1270

TEL.0120-26-3637(フリーダイヤル)

<http://www.keiwa-c.ac.jp/>

オープンキャンパスのご案内

大好評のオープンキャンパスを今年は七月から九月にかけて計三回実施いたします。おもに高校生を対象としていますが、保護者の方や本学に関心をお持ちの方などなたでもご参加いただけます。

当日は大学紹介や入試説明に加えて、「外国語の敬和」を実感できる体験模擬授業、在学生引率による校舎見学などを予定しています。また、各回ごとにテーマを設けてあり、内容が若干異なりますので、是非三回続けて参加されることをお勧めします。

■日時

第一回

七月二十四日(土)

第二回

八月二十八日(土)

第三回

九月二十五日(土)
いずれも十三時から十六時まで

■お申込み・お問い合わせ先

教務課入試係

(フリーダイヤル

0120-26-3637)

1000年度入試のご案内

推薦入試を充実します

全国的傾向として大学が軒並み志願者を減少させるという厳しい状況下で、一九九九年度の入試が実施されました。本学の志

願者も昨年比で約八十四%となりました。一九九九年度の入試結果を踏まえて学内で検討を重ねた結果、二〇〇〇年度入試は次のような方法で実施することになりました。

推薦入試

一九九九年度の一般入試は、従来入試に大幅な変更を加え、多様な尺度による入試制度を導入して行われました。二〇〇〇年度の一般入試についても、基本的に一九九九年度の一般入試を踏襲して実施することになりました。

推薦入試

推薦入試は、従来行つてきた指定校制および公募制併用の推薦入試を改め、指定校推薦、一般推薦および自己推薦の三区分といたします。その上で、出願資格の成績基準を緩和し、門戸を広げました。

指定校推薦および一般推薦における調査書の成績基準は、英語英米文学科は「最終学年第一学期までの英語の評定平均値が三・五以上」、国際文化学科は「評定平均値の制限なし」と緩和しました。今まで以上に人物を重視した推薦入試を実施することになります。(従来の基準は、英語英米文学科は「全体で三・五以上、かつ英語については三・五以上」、国際文化学科は「全体で三・五以上」でした。)

詳細については別表をご参照ください。

なお、外国人入試、社会人入試、帰国子女入試および編入学試験も実施します。

(入試委員会・入試室)

2000年度入学試験概要

入試区分	学科	募集人員	出願期間	試験日	合格発表	試験会場	試験科目・配点
推薦	英語英米文 (専願制)	20名	11月1日(月) ～11月12日(金)	11月21日(日)	12月2日(木)	本学	面接50点、調査書100点、特別活動等20点(上限)
	国際文化	20名					
	英語英米文 (専願制)	20名	11月1日(月) ～11月12日(金)	11月21日(日)	12月2日(木)	本学	小論文100点、面接50点、調査書100点、特別活動等20点(上限)
	国際文化	20名					
一般	英語英米文 (専願制)	10名	11月1日(月) ～11月12日(金)	11月21日(日)	12月2日(木)	本学	小論文100点、面接50点、調査書100点、特別活動等20点(上限)
	国際文化	10名					
	A日程:2科目型	英語英米文 国際文化	20名 20名	1月7日(金) ～1月21日(金)	1月31日(月) 2月9日(水)	本学、新潟長岡、東京	英語(リスニング含む)100点、国語100点、調査書100点
	B日程:1科目型	英語英米文 国際文化	15名 15名	1月7日(金) ～1月21日(金)	2月1日(火) 2月9日(水)	新潟	英語(リスニング含まず)、国語より1科目200点、調査書100点
C日程:課題面接型	英語英米文 国際文化	5名 5名	2月18日(金) ～3月6日(月)	3月11日(土)	3月17日(金)	本学	面接100点、調査書100点
	英語英米文 国際文化	10名 10名	1月7日(金) ～1月21日(金)	1月15日(土) 1月16日(日)	2月9日(水)		英語200点、国語、地歴、公民の11科目より1科目200点、調査書100点
センター入試							

保護者就職懇談会のお知らせ

敬和学園大学後援会主催の三年次生の保護者を対象とした就職懇談会を今年も十月九日（土）午後三時から開催することになりました。

就職協定が廃止されてから三年目となり、企業の採用活動が昨年よりもさらに「一ヶ月前倒し」の形で行われていることから、本年もこの対策として、早い時期からの三年次生への就職指導を実施しております。

文部・労働両省による調査によれば四月十三日現在、四年制大卒者の就職内定率は八八・七%で、前年同期に比べ二・二ポイント下回り、調査を始めた一九九四年度以降最低となっています。さらに「超氷河期」といわれた一九九六年の同期より一・六ポイント低く、始めて九〇%を割りました。こうした非常に厳しい就職環境の中での就職活動を成功させるためには、大学だけではなく、ご家庭におかれましても卒業後の進路について積極的に関心を持っていただき、お子様の希望を確かめながら、就職活動についてのご支援をお願い致します。当日は、第一部では本学における進路指導への取り組みについて保護者の皆様にご理解いただき、ただくことを目的として各種の説明を行い、ご質問もお受けいたします。第二部では各ゼミ担当教員と前期成績結果や進路などについて自由な懇談の場を設定いたしております。

大学、後援会とも最も最も重視しております催しですので、多くの方々のご出席を心よりお待ち申し上げております。

日時　一九九九年十月九日（土）

会場

新潟市西堀通七一一五七四番地
会議室
午後三時から
ホテルイタリア軒
〇二五二二三四五一一一

敬和学園大学公開講座 —二つの世紀末—

私たちはまもなく世紀を越えようとしています。世紀末とは人間が時間の流れに与えた単なる区切りでしかないのでしょうか。それとも、世紀末には何か特有の現象があるのでしょうか。今回の公開講座では、私たちの世紀末と百年前の世紀末を比較してみたいと思います。両者には共通性があるのでしょうか、それとも全く別のものなのでしょうか。この一世紀は私たちの発展、停滞あるいは後退（？）だったのでしょうか。こういったことを考えながら、21世紀に目を向けてみたいと思います。

とき：1999年9月17日～11月5日 毎週金曜日 よる7時～8時30分

第1回(9/17)は開講式のため6時45分から

ところ：新発田市生涯学習センター 講堂

参加費：3,000円（1回目にご持参ください）

申込み：敬和学園大学総務課（TEL.0254-26-3636 FAX 0254-26-3646 E-mail:somu@keiwa-c.ac.jp）

新発田市生涯学習センター（TEL.0254-26-7191）

月 日	テーマ	講 師
1 9月17日	二つの世紀末－英文学の場合	学 長 北垣 宗治
2 9月24日	19世紀のポンド、20世紀のドル、21世紀のユーロ	教 授 大海 宏
3 10月 1日	「100年後の決算」明治期日本の近代化－科学史の立場から	助教授 西村 秀雄
4 10月 8日	日本文学にみられる二つの世紀末	客員教授 若月 忠信
5 10月15日	半封建・半殖民地経済から改革開放・市場経済への中	助教授 房 文慧
6 10月22日	フランスにおける世紀末	助教授 佐藤 渉
7 10月29日	19世紀末ドイツの社会と文化	助教授 岩倉 依子
8 11月 5日	19世紀末アメリカの悪夢	教 授 松崎 洋子

【主催】敬和学園大学 新発田市大字富塚1270 TEL.0254-26-3636

【共催】新発田市生涯学習センター 新発田市中央町5-8-47 TEL.0254-26-7191

後援会長就任挨拶

去る四月三日に開催されました本学後援会総会に、岩村忠衛会長の後任として、不肖私が会長に選任され、お引き受けすることになりました。責任の重大さを痛感し、身の引き締まる思いであります。殊に、岩村前会長は三年にわたり会長として、著しく業績を残されましただけに、私としては不安な面はありますが、役員皆様の協力を得ながら、力を合わせ、会の運営に当たって参りたいと存じます。会員の皆様には何卒よろしくお願ひ申し上げます。

今、大学を取り巻く環境は、誠に厳しいものがあります。特に少子化につきましては、十八歳人口の減少という問題に直面し、本学においてもその現象が現われ、今後に向け憂慮すべき事態が予想されます。

一方、厳しい経済状況の中で、卒業生の就職も一段と厳しさを増し、就職活動の手を緩められない状態であります。後援会としては、こうした状況を踏まえ、総会の決議に基づき、会員相互の連絡を図り、保護者との就職懇談会や、企業との懇談会を大学側と共に積極的に進めて参りたいと思います。

また、学生確保対策につきましても、大学側と連携を取りながら、大学活性化のため努力させていただきたいと思っております。会員各位におかれましては、現状を認識され、ご協力賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

敬和学園大学後援会 会長 石井富男

1999年度敬和学園大学後援会役員

職名	氏名	住所	TEL	職業	備考
会長	石井 富男 7回生保護者	〒957-0347 新発田市大字大友1683	(0254)25-2294	新潟県労働金庫 業務部長	
副会長	中山 いつ子 6回生保護者	〒957-0007 新発田市小舟町3-2-29	(0254)26-1071	主婦	
副会長	菅原 晃 6回生保護者	〒957-0052 新発田市大手町1-2-16	(0254)22-2969	菅原呉服店主	
理事	海津 博 8回生保護者	〒957-0053 新発田市中央町5-4-14	(0254)22-6244	(株)カイツ自動車 代表取締役	
理事	尾川 タエ子 8回生保護者	〒951-8113 新潟市寄居町697	(025)228-0171	主婦	
理事	川瀬 耕太郎 9回生保護者	〒957-0006 新発田市中田町2-16-8	(0254)22-4227	養鶏場経営	新任
監事	高澤 正 8回生保護者	〒959-2526 新発田市大字中妻74	(0254)29-2206	(株)新発田ヤクルト販売 取締役 総務部長	
監事	若槻 好子 9回生保護者	〒950-0836 新潟市東中野山5-7-15	(025)277-5045	主婦	新任

新発田藩旧藩主溝口直正公の意を帯びて旧藩士子弟の東京での学生宿舎（発新館）が小石川区に出来たのは明治三十一年であった。その後、明治三十八年八月に現在の西片の地に移転した。当時の本郷区（現文京区）の西片町は、江戸時代には福山藩阿部家の江戸中屋敷があつたところである。阿部家は、徳川の譜代大名で、老中を勤めた藩主も多く、幕末に日米和親条約を締結した阿部正弘は有名である。阿部氏は教育熱心で明治になり、中屋敷跡で町造りを始めた。

来年開校一二五年を迎える誠之小学校や、区立第一幼稚園は、阿部家が寄附したものである。積極的に文化人を招致し、大正時代は「学者町」と云われた。夏目漱石の「三四郎」や太宰治の「斜陽」の舞台になつた。この町に、新しい新発田学生寮は竣工した。この町は、新発田の学生を暖かく迎える町である。（西片の高台の端に私の家があり、庭の崖下に育英舎があり、隣接者として、竣工式にも招待された。その関係でこれを書くことになった。）



左から遠藤謙二理事、村山義一理事、巖沼赳夫前市議会副議長、片山吉忠市長(理事長)、高橋善之助市商工会議所会頭、大倉昭子新潮社顧問、渡辺幸二郎新発田建設社長

「新発田育英会学生寮」と
教授 片桐 邦郎

図書館における「情報センター」としての役割

主任 松原 洋子

今年四月末、ニューエル館側の閲覧机の一部にパソコン六台を新たに増設しました。一昨年の十月から四台のノート型パソコンの貸出サービスを始めていましたので、今回の増設で合計十台になりました。

図書館にパソコンを設置することにより、CPU教室が授業で使われていても学生は図書館に来てインターネット等を利用することができます。朝九時の開館と同時に何人の学生がパソコンに向かって一目散に走っていきます。常に十台とも使われている状態です。この状況を目の当たりに見

ていますと、本学の図書館業務も従来の資料貸出しだけでなく、情報センターとしての役割を担うようになつたことを感じさせられます。同時に時代の大きな変化を感じます。

しかし、問題点もいくつかあります。一つは、パソコンを利用している学生はいつも同じ人ということです。情報処理担当の安藤先生の「できるだけ多くの学生がコンピュータに慣れ親しんで欲しい」という趣旨に反しているように思えます。

また、最初はインターネットを楽しみとして利用するのは良いことですが、その域を出ていないように見えます。特に三・四年生は、就職情報を検索したり、就職活動に生かしてみてはどうでしょうか?

ところで、図書館が発行している「図書館だより」(一九九八年四月号)で学長も執筆されているのですが、古くから人類が蓄積してきた「書物」はあまり必要ないのでしょうか?

学生の皆さん、もっと本を読んで下さ

ユータが対応を迫られており、その対策に昨年秋から検討を重ねてきました。その結果、最新のサークル機及び教務事務システムの導入により解決し、さらに合理化できることになりました。またこれを機会に、各種証明書や学生割引証を自動発行にするシステムを導入します。今まででは英文等を除き、申し込みから二日を経過しないと発行できませんでしたが、これからは、大学を開放している時であれば、在学生は必要な時に、その場で発行を受けることができます。設置場所は聖籠館一階の公衆電話の脇とし、そこにあつた公衆電話の一台は、オレンジ・ホールの廊下に移転しました。

この発行機によつて少しでも学生諸君に利便を図ることができればと願っています。



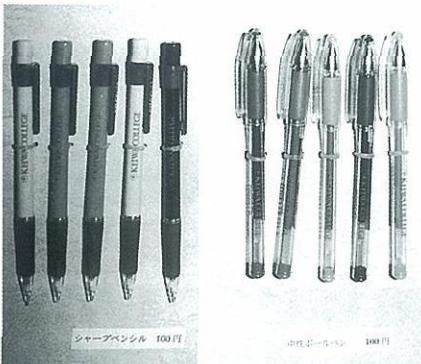
各種証明書等の 自動発行機導入

コンピュータの一〇〇〇年対応については、既に大きな社会問題となつて いますが、本学でも教務の主力コンピ



敬和グッズを発売

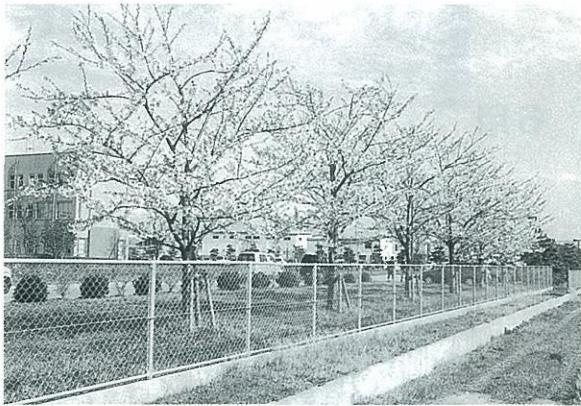
広報委員会では、敬和グッズの発売を目指して、昨年度から学生へのアンケート調査を行うなどして、検討してきました。その結果、身近な文房具に大学名を入れることから始めることとなりました。



そこで、本学の購買で文房具を販売している長崎屋さんにこの企画を持ち込んだところ、主体になることを快くお引き受けいただきました。その後商品の選定等具体的な打ち合わせを行い、写真の商品が完成しました。早速入学式に参列された保護者にお配りし、同日から購買でも販売を始めました。公開講座の参加者や贈答品としても配布する予定です。

また、レポート用紙と原稿用紙も大学のオリジナルを作成し、今までと同じ値段で販売しています。

委員会では今後も商品の開発を行っていく予定です。



開学の年に植樹した桜がこんなに大きくなりました。

寄付者ご芳名

学事予告

◆七月◆

十六日 前期末試験（～二十四日まで）

二十四日 第一回オーブンキャンパス

夏期短期留学

サンバナディーノ校（米国）
（～八月二十九日まで）

アングロ・コンチネンタル
（英國）（～八月三十日まで）

（～八月二十九日まで）

夏期休暇（～九月二十四日まで）

（～九月十一日まで）

ワシントン外国语アカデミー（米国）
（～九月十一日まで）

（～九月十一日まで）

第二回オーブンキャンパス

（～九月十一日まで）

◆八月◆

七日 夏期短期留学

（～九月十一日まで）

第一回公開講座（新発田）

（北垣宗治 学長）

（～二十四日まで）

二十日 福祉体験学習週間

（～二十一日まで）

二十一日 就職対策講座（前半）

（～二十一日まで）

二十二日 第二回公開講座（新発田）

（大海宏 教授）

（～二十一日まで）

二十三日 敬和ふれあいバラエティー

（～二十一日まで）

二十四日 第三回公開講座（新発田）

（西村秀雄 助教授）

（～二十一日まで）

二十五日 第五回公開講座（新発田）

（若月忠信 客員教授）

キャンパス日誌

4月

- 1日 学年始め
辞令交付（客員教授 若月忠信、教授 永野茂洋、助教授 房 文慧、ボランティア主事 山崎ハコネ）
3日 入学式、大学後援会総会
5日 新発田市新採用職員8名見学
6日 敬和学園高等学校入学式
7日 交通安全講演会
8日 前期講義開始
9日 チャペル・アッセンブリー・アワー①
説教 北垣宗治 学長
「大学生にはこんなことができる」
14日 教授会
16日 チャペル・アッセンブリー・アワー②
説教 松井愛美 十日町教会牧師・学園理事
「キリストの救い——讃美を通して」
19日 大学後援会役員会
21日 臨時教授会
22日 新生入オリエンテーション（～23日まで）
／胎内パークホテル
27日 国際ソロブチミスト 来学
30日 チャペル・アッセンブリー・アワー③
説教 延原時行 宗教部長「神の友情」
講演 房 文慧 助教授「中国の大学」

5月

- 7日 チャペル・アッセンブリー・アワー④
説教 小淵康而 新潟信濃町教会牧師・学園理事
「青年よ大志をいだけ」
12日 教授会
13日 聖籠町公開講座①
講師 北垣宗治 学長「教育と文学」
14日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑤
説教 延原時行 宗教部長
「けがれた靈よ、出て行け」
対話「キリスト教への問い合わせ」
学生 五十嵐万梨、桜井文隆、松倉修司
教員 延原時行 宗教部長、山田耕太 教授、矢嶋直規 専任講師
15日 田植えボランティア（写真）

17日 学園常務委員会
19日 大学広報に関する勉強会（リクルート）
20日 聖籠町公開講座②
講師 延原時行 教授
「教育と文明・宗教」
21日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑥
説教 延原時行 宗教部長「絶望と感謝」
講演 山崎ハコネ ボランティア主事
「ボランティア事前指導（ボランティア総論）」
25日 理事会・評議員会

- 26日 大学広報に関する勉強会（進研アド）
27日 聖籠町公開講座③
講師 益谷 真助教授「教育と素朴心理」
28日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑦
説教 船本弘毅
東京女子大学長
「あなたにとって大事なこと」（写真）


日本キリスト教教育学会 第11回学会大会
（～29日まで）28日は新潟教会、
29日は本学が会場（写真）



6月

- 2日 教授会
オレンジ会役員会・総会
3日 聖籠町公開講座④
講師 柴沼晶子 教授「教育と社会」
4日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑧
説教 矢嶋直規 専任講師「目に見えないもの」
講演 小林 茂氏（映画監督）「ドキュメンタリー 映画「放課後」「自転車」を作って」
10日 聖籠町公開講座⑤
講師 矢嶋直規 専任講師「教育と倫理」
11日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑨
説教 延原時行 宗教部長「コソボと宗教間対話」
講演 松山茂樹氏（新潟県社会福祉士会事務局長、国際福祉医療カレッジ講師）
「社会福祉におけるボランティア活動論」
12日 事務職員採用試験（1次）
学内スポーツ大会
15日 退職公務員連盟32名見学
16日 臨時教授会、人事教授会
聖籠町公開講座⑥
講師 斎藤 裕 新潟県立女子短期大学助教授
「教育と福祉」
18日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑩
説教 山田耕太 教授「ボランティアの心」
講演 松山茂樹氏（新潟県社会福祉士会事務局長、国際福祉医療カレッジ講師）
「社会福祉におけるボランティア活動論」
25日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑪
説教 原田史朗 東中通教会牧師
「岩の上に建てた家を創りなさい」
音楽礼拝 音楽家 江原二三子
音楽療法 山本理恵
26日 事務職員採用試験（2次）